



女性のまなざしでしなやかな社会を

# WE

特定非営利活動法人  
ウィメンズアイ

2019年度活動報告書・決算報告書  
2019年6月～2020年5月

# 2019.6-2020.5

# 南三陸町の拠点づくりとエンパワーメント

～女性たちが立ち寄れる場所、集える場所、学べる場所を～

南三陸町入谷にあるウィメンズアイ事務所（旧林際小学校音楽室）は、女性の活躍を応援する私たちの活動の拠点であり、まなびの講座の開催、ヨガや趣味のサークルの活動場所、イベントの運営事務局などとして活用しています。ここでの出会いをきっかけに新しい活動が生まれたり、女性たちのつながりが広がっています。

10月、台風19号の豪雨による周辺道路被害や2020年2月以降は新型コロナ・ウィルスの感染症の影響により、実際に人が集う場として活用される機会は減っていますが、これまでの活動経験やストックされてきた情報をもとに、地域の女性たちの活動を後押ししています。

女性のしごと相談窓口では、子育てと仕事の両立に悩む女性たちの声がよく聞かれます。女性たちの「個別の」問題に見える事柄は、実際は社会のシステムや制度の問題が原因となっているケースも多く、行政や他支援機関との課題共有など、社会への働きかけがWEの役目となりつつあります。



## エンパワーメント講座とワークショップ

女性たちが、自分の仕事・地域・コミュニティなどでより主体的に活躍できるようになることを目標に、南三陸町の事務所を地域の女性のエンパワーメント拠点として整備しながら、講座や集いを続けてきました。そこでは、こんなことが起こっています。

・「赤ちゃんとわたしの井戸端会議」の参加者たちが互いにつながりを持ったことにより、他のママたちの相談相手になっているほか、サークル活動を行ったり、「コミュニティ活動と地域づくり」の項で後述の「子そだてフェスタ」などの地域イベントへの関わりを深めている。

・自分のアイデアを提案したことがなかった女性が、勇気を得て、職場で挑戦したことを話してくれた。

・職場環境に悩んでいた女性が、「自分ができるはずがない」と思っていた分野への転職を機に活躍を始めている。

個別のインタビュー調査（参加型評価MSC\*）を取り入れ直接本人たちの声を聞いたことで、WEがもたらした変化の契機や、そこから波及した出来事などを知ることができまし



た。特に、「やってはいけない」という思い込みに風穴があいた事例が多く聞かれます。

「WEが呼ぶ人なら安心できる。子ども連れでも嫌な顔する人はいないだろうなと思って参加できる。」（拠点WS参加者）という声に反映されるように、女性たちが安心して受け入れられる場、頼りにできる場だと地元で認知されたことが、今年度のもっとも大きな成果でした。

講座に参加する女性の子どもの見守りをお願いする「ほっとバンク」（社協が運営する住民ボランティア制度）のシニア女性たちに講座の内容などを説明することで、若い女性たちのエンパワーメントに対する理解が徐々にですが深まっていることも重要です。

この事業を継続してきたことで、地域での女性の活躍について視察や取材などがくるようになりました。その際に当事者に取材を受けてもらうことも、本人の自信やモチベーションの維持につながっています。

\*MSC 参加型モニタリング・評価手法（Most Significant Change）の略。  
\*この活動はタケダ・いのちとくらしの再生プログラムに助成いただきました

### データ

- ・ストレスのないコミュニケーション講座 4回開催 のべ10名参加
- ・ヨガ教室 19回開催、のべ90名参加
- ・歩み続ける先輩に学ぶトークサロン（ゲスト 佐藤美代子さん（まんまるママいわて／助産師）） 1回開催 10名参加
- ・赤ちゃんとわたしの井戸端会議 2回開催 のべ10名参加
- ・参加型評価MSCインタビュー 6名実施





## WEくらぶ 旅するごはん会

「WEくらぶ 南三陸サークル」は南三陸町とその近隣の地域で、つながりをつくり、楽しく豊かな心で暮らす小さな仕事や活動を一緒に探したり作ったりする女性限定のサークルです。奇数月に「旅するごはん会」と称して、気分の上がるような手作りの料理を囲んでリラックスしながら、近況報告や情報交換、これからのことなど語り合ってきました。2月以降は残念ながら新型コロナウイルスの影響でリアル集まりはできず、オンラインでのお茶のみ会を開催しました。

### 2019年度開催

7月南インド料理の会（13名参加）／9月 タイ料理の会（9名参加）／11月 メキシコ料理の会（17名参加）／1月 ポルトガル料理の会（12名参加）



## 女性のしごと相談事業～子育て世代女性の就職支援

2017年度にスタートした「子育て女性就職支援拠点育成事業」は、補助対象の最終年度となりました。8月、同事業の他地域（大崎市・石巻市・登米市）を担当するNPO団体との意見交換の場に参加しました。託児や無料職業紹介といった他サービスとの連携など、それぞれの団体の強みを活かした事業が紹介されました。今回の事業がきっかけとなり、これらの団体を含む県内の女性支援団体のネットワークが作られています。

WEでは2018年5月より、ハローワーク気仙沼にご協力いただき、月に1度気仙沼市で出張相談窓口を開設することができました。教育機関を通じたチラシ配布で、子育て世代の女性への周知が進み、相談窓口の認知度もあがりました。

### データ

- ・相談窓口 計23名利用
- ・アンガーマネジメント講座 1回開催 5名参加
- ・講演会

「しあわせの自分軸を育てる～これからの田舎暮らし、自分らしい仕事と暮らしのくふう～」講師：ヒビノケイコ氏（日々（株）代表取締役

- 役、国家資格キャリアコンサルタント）会場：南三陸町 44名参加
- ・気仙沼市主催の男女共同参画社会づくり勉強会「尊重しあう関係を作るコミュニケーション講座」講師中村雪子（WE相談員）

\*この活動には宮城県子育て女性就職支援拠点育成補助金をいただきました



## うみさと暮らしのラボ ～里山・里海の資源をいかす小さな仕事とネットワークづくり ①

### 《パン菓子工房 Oui》

#### ・シェア加工場としての成果

パン菓子工房ouiシェア加工場の利用登録者「いずみばん」の水野いずみさんが、9月に気仙沼市に自身の工房を開設しました。2018年1月の利用登録以降、約1年半の間に、スキルアップ教室などで製パン技術をみがき、イベント出店で顧客を増やすなど、起業に向けシェア加工場を活かしてくれました。「いずみばん」の活躍は、他の利用者の刺激になっています。



#### データ

利用登録8名（2020年3月更新時）  
利用者共同販売会 1回開催  
世田谷パン祭り トークセッション登壇「南三陸に小さなパン工房はじめました～シェア加工場と女性たちのこれまでの歩み～」パン菓子工房oui × いずみばん ナビゲーター：山中礼二氏（みなさぼ）参加者14名

#### ・パン菓子製造業としての成果

町内で子育て中のパン職人スタッフとともに、地産の旬の野菜・果物・海産物などを生かした商品開発を行いながら、徐々に町内外の皆さんにお届けできる量を増やしてきました。工房での直販、後述のたがい市、JA朝市など、町内や近隣のマルシェへの出店・出品も行っています。国産小麦、天然酵母と、できる限り自然でオーガニックな素材にこだわり、安心・安全な食を美味しく届ける工夫を続けています。2020年3月以降は出店のチャンスがなくなり、初めての通販事業にも挑戦しています。



パンの通販サイト  
<https://umisatokosha.thebase.in>

#### データ

- パン菓子工房oui出店
- ・南三陸町内  
たがい市5回、ひころマルシェ2回、JA朝市1回
- ・その他地域  
8/25（日）架け橋マルシェ（気仙沼）  
9/8（日）お寺マルシェ（登米）  
9/15（水）アースデイ富谷（富谷）  
9/22（日）うみ×やま えきまえ市場（千厩）  
11/16（土）「暮らしの市」（塩竈）  
12/1（日）気仙沼ふれあいフェス  
10/14（月・祝）世田谷パンまつり（東京）  
10/20（日）千石ブックメルカード一箱古本市（東京）  
2/15（土）ひきだしマルシェ（仙台）



# コミュニティ活動と地域づくり

～地域の女性たちとともに、まちを育てる～

地域の女性たちと一緒に発案・企画した交流活動や、社協と連携した取り組みを通じて、女性のまなざしが生きる元気な地域づくりを行なっています。これまでの講座参加者やWEの拠点に集う女性たちが自主的にイベントの広報や人をつなぐことに協力してくれるなど、関わる人たちが確実に増えており、エンパワーメントの活動が住民参加のまちづくりに相乗効果をもたらしています。

\*これらの活動は、「女性の視点を活かした被災者のコミュニティ支援事業」としてみやぎ地域復興支援助成金をいただきました



## 南三陸みんなの子そだてフェスタ



**データ**  
みんなの子そだてフェスタ開催（出店者18、来場者数303名）  
南三陸町子そだて支援計画パブコメ収集（回答者17名、意見3件）



新しくできた生涯学習センターで第5回みんなの子そだてフェスタ in 南三陸を開催しました。第4回まで共催してきたママサークルから当事者が代わり。WE主催の「赤ちゃんとおわたしの井戸端会議」参加者である未就学児子育て中の女性たちとアイデアを出し合い、準備し、開催することができました。これまで以上に多様な人たちの関わりを生むことができ、例えばママたちの家族の協力、ジュニアリーダー（高校生3名）の参加、志津川消防署、気仙沼の人形劇団の参加など、関係者が地域に広がりました。また、南三陸町の子そだて支援計画についてのパブリックコメントの募集を会場内に設置したことで支援計画の周知と意見聞き取りができたことも成果でした。

出店者の大半は、子育て中の女性自身。「迷惑をかけてしまうかもしれない」という不安は、関係者みんなでカバーし合いながら、それぞれの得意を活かして、イベントを盛り上げてくれました。

## 小さなたがい市～高台での出張ミニマルシェ

震災後、高台に作られた団地や災害公営住宅などは、ほぼ住宅のみで構成される地区となっており、高齢者は特に移動の問題を抱えています。交流やコミュニティ活動はまだまだこれからです。社協と協働で開催した出張ミニマルシェ「小さなたがい市」では、新たにできた高台地域だけでなく、既存のコミュニティの住民との交流を促し、地域に一時のにぎわいをもたらすことができました。

誰もが参加しやすい「買い物」という気楽な場がもたらす交流が喜ばれ、住民同士の心理的な壁を緩和する役割を果たしています。支援方法として「出向いていくスタイル（アウトリーチ型）」は、共催している社協からも評価されています。

出張先の高台住民のなかからは、自分も出店を検討する方が現れるなど、気持ちの変化が始まっているのは嬉しいことです。婦人会の女性たちがこのイベントの告知をし、当日の高齢者向けに近所の人同士が車の乗り合わせで来てくれるなどの面でも地域住民からの協力を得られるようになりました。WE、社協、出店者、関係者、住民と連携を図りながら活動を行なっていくというパートナーシップが醸成されて

きました。

移動の問題や買い物弱者に対する支援はまだまだ求められている一方、コロナウィルスの懸念により年度末には対面の活動を縮小せざるをえない状態になりました。このため、「たがい市通信」を発行してお届けするなど、住民とのつながりづくりを工夫しながら事業を進めています。

出店者の声「地域の交流の場になった。福祉作業所の利用者との交流もできた。作業所の見学、作業の内容も知ることができた。」「（仮設で一緒だった人など）懐かしい人に会えたと喜ばれた。」



# 地域コミュニティのサポート、テーマ型コミュニティ育成

地域コミュニティ再生のために、震災後新たに始める地域行事のサポートを行いました。また、興味・関心・課題などのテーマで集まる人たちの交流とコミュニティづくりも続いています。

## おきなぐら納涼まつり

戸倉公民館が事務局となり開催された地域の祭り「おきなぐら納涼まつり」では、これまでの婦人会とのつながりから、WEも出店を通じてまつりの盛り上げに一役買いました。



## 南三陸まなびの女子会

多世代の女性たちで町の復興を考える「南三陸まなびの女子会」では、NPO法人キッズドアの南三陸町学習支援事業の担当者に、町の子どもの現状と子どもたちが生きる未来の社会について話をしてもらいました。シニア女性たちが地域の現状を知り、教育の課題に対する理解を深める機会となりました。

## しゃいん食堂

WE事務所と同じ敷地にある校舎の宿さんさん館の女性ス

タッフたちと一緒に、「しゃいん食堂」と名付けた毎月の昼食イベントを行ないました。旬の地野菜をたっぷり使ったお洒落でヘルシーな料理は地域の女性たちに人気で、子ども連れのママたちにも愛されています。人々がゆるやかに出会い、交流する場所として定着し始めていましたが、新型コロナウイルスの影響で冬以降は中止を余儀なくされています。

## 八幡さまで小さなたがい市

新しい商店街はおもに観光客が集まる場所となっており、町の中心市街地に地域住民が出かけたり、交流する機会が少ないという声を受け、商店街至近の上山八幡秋祭り宵宮祭での地元の子どもたち向けの夕涼み市を企画・実施しました。大学生ボランティアの手も借りて、手づくりの縁日屋台が好評でした。当日は夕方から親子連れを中心に住民で賑わう場が開催できたことで、まずは第一歩を刻むことができました。

## データ

- ・南三陸まなびの女子会開催（ゲスト：NPO法人キッズドア 対馬良美さん） 参加者4名
- ・しゃいん食堂 4回開催 のべ45名参加
- ・リアンの会（刺し子サークル） 18回開催 のべ83名参加
- ・地域行事のサポート
  - おきなぐら納涼まつり（戸倉公民館駐車場）、来場者約400名
  - 上山八幡秋祭り 八幡さまで小さなたがい市（出店数10、来場者120名）

# うみさと暮らしのラボ

～里山・里海の資源をいかす小さな仕事とネットワークづくり ②



## 《ひころマルシェ事務局としての活動》

「おいしい、楽しい、すこやかな暮らしをこの土地で」を合言葉に、2015年秋から年2回、入谷の「ひころの里」広場で行ってきたマルシェです。地域の「あるもの」を見直したり、持続可能な暮らしにつながるチャレンジをしたり、エコやオーガニックな活動をしている人たちが出会い、ゆるやかにつながる場所になってい

ます。2018年からは、地元の若者たちと立ち上げた「ひころマルシェ実行委員会」で主催しています。今年度初夏はお天気にも恵まれ、過去最大の規模になりました。

- ・第8回ひころマルシェ 初夏 6月9日開催  
出展数60ブース、来場者1766名（うち子ども約602名）、ボランティア41名
- ・第9回ひころマルシェ 秋 10月6日開催  
出展数49ブース、来場者989名（うち子ども約343名）、ボランティア42名  
主催：ひころマルシェ実行委員会 共催：ひころの里  
後援：南三陸町、（一社）南三陸町観光協会



## データ

- ・小さなたがい市を南三陸町社会福祉協議会との協働で5回開催  
6/21志津川西団地集会所（出店数9、参加者117名）、7/19戸倉沖田地区集会所（出店数9、参加者58名）、9/20 歌津 のぞみ福祉作業所駐車場（出店数10、参加者58名）、10/18入谷桜沢復興公営住宅集会所（出店数7、参加者28名）、11/1 歌津 名足復興公営住宅集会所（出店数8、参加者68名）
- ・今年度の出店者：カリタス南三陸、まめ菜工房「ビーンズくらぶ」、森と草花、Atelier Cocozero、自然卵クレープfrom大沼農園、手作りKERO、装飾具屋Vent、NOZOMI PAPER Factory、Oct-VIN369、おのちゃん工房、猫ハソーイング、THE POP STAND、焼き鳥なっちゃん、結の里えんがわカフェ、ひころマルシェ実行委員会、パン・菓子工房oui（順不同。うち、町内からの出店13、ナリワイ塾参加者3、WEくらぶ参加者7）
- ・社協と連携しての関連事業  
南三陸町社会福祉協議会「結の里」1周年イベント出店、「小さなたがい市」出店者アンケート実施、元年度たがい市社協合同振り返り会実施（社協3名、WEスタッフ2名）／小さなたがい市新聞200部発行・配布／南三陸町健康・福祉まつりに出展

## 《その他の活動》

この土地の知恵を学びつなぎ、地域のめぐみを巡らせるための学びの場、情報発信

- ・竹垣をつくろうワークショップ 講師：佐藤なおやさん（造園家） 16名参加
- ・トランジション・タウンお話し会 講師：吉田俊郎さん（トランジション・ジャパン共同代表） 14名参加
- ・南三陸の中世勉強会（共催：南三陸研究会） 8回開催、のべ368名参加
- ・冊子「パッパノオト」vol.2（南三陸町のおばあちゃんたちの聞き書き集）発行



# 広域での エンパワーメント活動

～福島、宮城、岩手

2016年度から3年間、岩手・宮城・福島で行ってきた若手女性向けリーダーシップ合宿研修「グラスルーツ・アカデミー東北」を受け継ぐ3年間の新プロジェクトを2019年7月に始動。WEが培ってきたエンパワーメント活動の経験をいかすチャレンジが始まっています。



## ローカル女子と未来をひらく プロジェクト

東北を始め、日本各地のローカルですでにアクションを開始している若い世代の女性たちを対象に、自ら導く力、影響を与える力、レジリエンスという3つの力をつける「根っこのエンパワーメント」を広げる活動を始めました。具体的には、エンパワーメント・プログラムの開催、少額助成「コミュニティ・アクション」、ロールモデルや事例、支援のヒントの発信を行います。



初年度、これまでグラスルーツ・アカデミー東北で取り入れてきた各種講座でプログラムをスタートしました。しかし、対面開催が必須な講座が2月以降新型コロナウイルスの影響で開催できなくなったため、急遽、オンラインを活かせる講座を行いました。また、ウェブメディア制作に向け、グラスルーツ・アカデミー参加者の営む気仙沼のデザイン会社をパートナーに、これまでの知見の整理をスタート。今後の情報発信ツールとなる準備サイトを公開しました。

特筆すべきは、グラスルーツ・アカデミー東北の過去参加者が、自分たちが受けた支援を後輩たちにも渡したいと地域

にエンパワーメントの連鎖を作りはじめていることです。具体的には、自発的に同窓会を企画・実行したり、地域活動の先輩としてトークセッションで自分の経験を語る活動などを行なっています。また、地域でははじめの一步を踏み出す活動を支援する少額助成「コミュニティ・アクション」を、周りで活動を始めたばかりの若い女性たちに紹介しWEにつながることで、彼女たちのステップアップの力になっています。

\*グラスルーツ・アカデミー紹介動画公開  
<https://youtu.be/ccBkAJTGmig>  
\*ローカル女子と未来をひらくプロジェクト特設サイト  
<https://comado.womenseye.net>

### データ

- エンパワーメント・プログラム（講座、オンラインセッション）
  - ・コミュニケーション講座 6回開催 15名参加
  - ・チームビルディング 1回開催 9名参加
  - ・グラスルーツ・アカデミー同窓会 合宿（1泊2日）26名参加 オンラインセッション 2回開催 22名参加
  - ・【オンライン】トークサロン 1回開催 22名参加
  - ・【オンライン】オトナ女子のすこやか講座～女性のからだと心の健康を学ぶ 1回開催 10名参加
  - ・【オンライン】セミナー 世界のローカリゼーションを学ぶ 講師：中野佳裕さん（早稲田大学）1回開催 35名参加
- 少額助成プログラム
- ・「コミュニティ・アクション」開始1件（大船渡市、障がい児ママのマカフェ開催）、他4件進行中

\*この活動にはチャネル財団の助成をいただきました



## 地域コンサルティング

復興庁地域づくりハンズオン事業の委託を受け、田野畑村森のようちえん準備グループへの伴走支援を行いました。実践者の相談に乗り、次年度以降の活動の計画と土台となるコミュニティづくりをお手伝いしました。



### データ

- ・田野畑村往訪3回、山形県金山町認定こども園「めぐたま」視察同行
  - ・座談会「ママの『やりたい』が地域の元気に～小さい一歩の踏み出し方」トークゲスト：板林恵さん（(一社) SAVE TAKATA（現・トナリノ））
- \*WEスタッフはオンラインによる遠隔参加 15名参加

## 国際交流活動～映画プロジェクトに参加

チリ・アルゼンチンのドキュメンタリーフィルム制作プロジェクトに日本側コーディネーターとして参加しました。2010年チリ地震津波で被災した後に食のビジネスを起業したチリの女性たち3名が10月に撮影クルーとともに南三陸町を訪れ、同様に町内で食のビジネスを起業した女性たちと交流。この模様が、「Tsunami Ladies」というショートフィルムとなりました（日本語版制作中）。世界のローカルをつなぎ、共感し、知恵の交流を行うことができたと同時に、出演女性たちの自信にもなりました。



津波レディース  
<http://www.tsunami-ladies.com>

## 南三陸町拠点での視察・研修受入



### 代表 石本めぐみによる登壇・講演

「みんなのSDGs」シンポジウム「ジェンダー指標と女性のエンパワメント実践」登壇／港区防災学校・防災講演会・ワークショップ「女性の視点で考える防災」講師／青少年国際交流推進センター主宰地域コアリーダープログラム「社会課題の解決に政策提言を考える」ワークショップ／埼玉県入間市社会教育課人権講演講師ほか、計11回

### 事務局長 栗林美知子による登壇・講演

志津川高校講話／RQ共同シンポジウム「被災地の復興を長く続けていくために」、ほか計4回



## 首都圏での広報活動

東京・入谷の古民家「そら塾」でWE活動展イベントを開催しました。東京・江古田のベトナム料理店「Mai mai」さんとのコラボで、ベトナム風サンドイッチ「バインミー」カフェをオープン。写真展示、歌津での刺し子サークル「りあんの会」の作品展示のほか、トークイベントも開催しました。コーヒーを飲みながらゆっくりWEの最近の活動をお伝えすることができました。

トークイベント「地域を元気にする女性たち～力をつけたら踏み出せた～WEの考える女性のエンパワメント」

話し手：田浦佐知子（WE理事）、栗林美知子（WE事務局長）／ゲスト：桜井愛子（東洋英和女学院大学大学院准教授）／22名参加



なお、新型コロナウイルスの影響で、毎年3月末に恒例となった「三陸ワカメ祭り」は中止といたしました。せめてできることを、「たみこの海パック」さんとのコラボでワカメとワカメパンの通販セットを販売しました。

## 2019年度決算報告(概算) 2019年6月1日～2020年5月31日

収入 (円)	17,752,461
<b>助成金・補助金</b>	<b>7,892,324</b>
自治体からの助成金・補助金 (*1)	2,676,783
民間からの助成金など (*2)	5,215,541
<b>寄付</b>	<b>676,895</b>
一般寄付 (*3)	676,895
<b>事業</b>	<b>8,961,433</b>
交流事業	36,100
人材育成事業 (*4)	4,400,000
人材育成事業	157,604
うみさと暮らしのラボ事業	425,390
広報事業	495,312
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	3,447,027
<b>会費</b>	<b>191,000</b>
<b>その他</b>	<b>30,809</b>

支出 (円)	17,752,461
<b>プロジェクト費</b>	<b>16,815,769</b>
交流事業	2,364,196
人材育成事業 (アドバイザー業務)	3,298,742
人材育成事業	6,115,226
うみさと暮らしのラボ事業	342,575
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	4,455,438
広報事業	239,592
<b>管理費</b>	<b>175,943</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>72,002</b>
<b>経常外費用</b>	<b>500,440</b>
雑損失	500,440
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>188,307</b>
前期繰越正味財産額	4,292,568
次期繰越正味財産額 (*5)	4,480,875

\*1 内訳：みやぎ地域復興支援助成金、宮城県子育て女性就職支援拠点育成補助金

\*2 内訳：タケダ・いのちとくらし再生プログラム第2期、チャネル財団

\*3 寄付者名簿 (5万円以上) はホームページにて掲載しております。

\*4 平成31年度地域づくりハンズオン支援事業における田野畑村づくりカンパニー (仮称) 支援業務

\*5 複数年度にまたがる事業へ助成金などが含まれます

# Message from Women's eye この1年

南三陸町では、すべての災害公営住宅が2017年に完成してから2年が経ちました。ようやく落ち着いた生活の中で、10年間の復興事業の仕上げとと呼ばれる段階へと入りました。ウィーカが進んでいる？ 地域の未来を話し合う時に女性が意見を出しやすい仕組みは増えている？と問いかけあいながら事業をつくっています。「ひころマルシェ」や「南三陸みんなの子そだてフェスタ」、「小さなたがい市」など、子づれで家族が参加しやすいにぎわいの場を提案したり、イベントの運営を地域の若者や女性たちと協働して行うスタイルが、ウィらしいやり方として地域でも認知されています。

東日本大震災から10年目に入った2020年3月以降は、「コロナ禍(か)」という言葉と共に、日本全国で不安と自粛が広がりました。実際に場をつくったり参加することで、一緒に変化をつくっていくことを大事にしてきたウィの活動は苦境にたちました。でも、この状況が、ウィの講座のオンライン化や、地域の女性たちがパソコンやzoomを学べる場の整備を加速させることにもなりました。さらに、草の根女性のエンパワーメントの経験を共有・発信していく「ローカル女子と未来をひらくプロジェクト」もスタートしました。活動をつづけてきたことで、自治体、学校、地域から声をかけて頂いたり、女性たちの一歩が二歩、三歩へと進んだり、春の息吹のような希望を感じたりもしています。福島でもグラスルーツ・アカデミーを参考にしたROOTS PLUSの活動が始まったことを心から応援しています。

**WEのビジョン**  
女性が自らをいかし元気に活躍できる

**WEのミッション**  
女性たちが、地域、社会につながるプラットフォームとなる  
女性たちが必要な力をつける機会をつくる  
災害を経験した女性たちの声を内外に届ける

東日本大震災後の復興支援の経験から、  
地域が続いていくために女性の元気が欠かせないと気づきました。  
私たちの活動は皆様に支えられています。  
どうか、ウィメンズアイを応援してください。

## クレジット決済寄付

寄付サイト Syncable を通してお手続きいただけます。マンスリーサポーター（毎月定額寄付）、あるいは今回のみ寄付をお選びください。

<https://womenseye.net/support>

## 振込による寄付

右記連絡先宛に、お名前、ご連絡先、お振込予定日、領収書の宛名をご一報ください。

### 振込口座

〈銀行の場合〉

ゆうちょ銀行

金融機関コード9900

店番：818

預金種目：普通

店名：ハ一八店（ハチイチハチ店）

口座名：特定非営利活動法人ウィメンズアイ

口座番号：1966320

〈郵便局からの場合〉

郵便振替口座：18190-19663201

口座名義：トクヒ）ウィメンズアイ



特定非営利活動法人ウィメンズアイ  
**Women's Eye**

ホームページ

<https://womenseye.net>

Facebook

<https://www.facebook.com/Womenseye20130604/>

Twitter

<https://twitter.com/womenseye1>

住所 〒986-0782

宮城県本吉郡南三陸町入谷山の神平10-1

TEL 0226-25-9517

FAX 0226-25-9519

メール [info@womenseye.net](mailto:info@womenseye.net)

○2019年度末（2020年5月31日）現在  
正会員31名、賛助会員14名、スタッフ総勢：9名  
ボランティア参加者数：年間のべ164名  
事務局長 栗林美知子

○役員一覧

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橘高真佐美（弁護士）

理事 西村和代（(株)カラズジャパン代表）

理事 清野浩司（中小企業診断士）

理事 塩本美紀（編集者・ライター）

理事 田島誠（認定NPO法人環境エネルギー政策研究所）

理事 田浦佐知子（研修ファシリテーター）

監事 成田由加里（公認会計士・税理士）

